



史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

No.17 大学史料室の装飾天井



大学史料室は国の重要文化財に指定されている「旧島津家本邸 二棟（本館 事務所）」のうちの一つであるレンガ造り2階建ての「事務所」（本学3号館）の2階に位置しています。

大学史料室となっている部屋は、白漆喰の壁と装飾天井、アイボリーの絨毯、白大理石風の展示ケースが調和し、多くの来訪者から感嘆の声が上がる空間です。

また、こちらの部屋はこの建物の中で唯一天井装飾がなされており、島津家時代には特別な用途に使われたと考えられます。天井装飾は豪華さこそ「本館」ほどではありませんが、大変に美しいものです。



この部屋の具体的な用途については、現存する資料に記録が残っておらず用途は不明です。

ただし、島津家第32代当主の島津修久氏*1のインタビュー記事（『袖が崎の本邸*2』の思い出。）」から、現在の大学史料室がかつて「島津家資料編纂所」として使用されていた可能性も示唆されます。

「『袖が崎の本邸』の思い出。」一部抜粋

「レンガ造り二階の建物は、私どもは『事務所』と呼んでいました。ここはある時期、島津家が所有していた歴史資料を収集整理、研究していたところで『島津家資料編纂所』がありました。今、東大にある国宝『島津家文書、資料集』なども、ここにあったものです。」

（「東京人 特集：清泉教育のあゆみ」4月増刊号 通巻369号 2016年4月15日発行）

新たな資料の発見や研究の進展により、この部屋の島津家時代の具体的な用途や歴史的背景がより明確になることが期待されます。

*1 島津家第 32 代当主の島津修久氏：2024 年 12 月 31 日逝去。

*2 袖が崎の本邸：昭和 10 年代には「旧島津家本邸」を島津家では「袖が崎の本邸」（袖が崎とは当時のこのあたりの地名）と言い、修久氏は「御本邸（ゴホンテイ）」と呼んでいた。修久氏は、この邸宅の裏口（本学北側裏門）から 2、3 分の距離の「別邸」で生まれ育ち、兄妹とともに祖父の忠重公が居住する「ゴホンテイ」へ遊びに通ったことを、同インタビューの中で語っている。



「史料室だより」は清泉女子大学公式インスタグラムにて連載中です。